

主張

国は、地域医療構想でいわれる団塊の世代が75歳以上を迎える2025年に向けて、病床数を全国で135万床から119万床（マイナス16万床）に減らすと

している。三重県でも2017年3月に

「三重県地域医療構

想」が策定され、2

016年の県内の病

床報告数1万637

4床から2025年

の推計である1万358

4床へと2790床減少

される計画となっている。

2018年3月に策定さ

れている「第7次三重県

医療計画」の中で、20

25年の必要病床数は、

あくまでも地域における

医療機能の分化・連携を

進めるための目安と考え

ており、この必要病床数

をもとに病床を強制的に

削減していくという趣旨

のものではありません。

と記載されているが、目

標とされる病床数の数字

これでは在宅難民・介護

難民の出現・増加が将来

的にも大いに懸念される。

地域医療を担う医師の過

重労働への配慮対応の中

で、単なる時間制限のみ

では救急医療を中心に破

綻してしまう。三重県の

に対して三重県は20

8・8」とされている。ま

た、総務省の「統計でみ

る都道府県のすがた20

17」では一般病院数…

36位、一般病院病床数…

37位、医師数…36位、南

科医師数…35位（すべて

8年3月に出されている

が、常勤医師の減少と非

常勤医師への依存度が増

加しており、診療科別で

は内科系・外科系の減少

と精神科・産婦人科の増

加傾向の実態が報告さ

れ、全体として医師確保

対策を継続かつ強化

していく必要がある

とまとめの考察がさ

れている。医師の絶

対的不足（厚労省の

最近の試算でも20

36年に2万400

0人の医師不足）が

にはどうしても引きずら

れる危険性が高いと懸念

される。「入院から在宅

へ、病院から地域へ」と

いう国の大きな流れの方

針が基本にあるが、地域

／在宅での受け皿が不足

しているのが現状である。

医師数／医療体制の統

計では、本年2月の一般

紙にも報道された厚生労

働省の医師偏在指標で

34位の「医師少数県」と

なっており、絶対的な医

師不足の県（医師偏在指

標の全国平均238・3

人口10万人当たり」と医

療体制全体に低い状況で

ある。県の健康福祉部と

医師会が2017年10月

に行った県内全98病院

（5年前に比し4病院減

少）の診療科別医師の充

足率調査報告書が201

基本的にある状況の中、

地域住民の方にも医師／

医療体制の現状を知って

いたたきながら地域医療

の崩壊を招かないような

対応・対策を中長期的な

視点からも慎重に行って

いく必要がある。

三重の地域医療を守ろう 地域医療構想への懸念